

事務事業チェックシート

事務事業No 事業名
562 専修学校各種学校協会運営費補助金交付事業

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		教育総務費	
	目		事務局費	
	大事業		事務局事業	
事項		補助金等事業 (各種学校等)		

[長期総合計画]

分野別目標	5	子どもが輝き、文化が薫る教育のまち
政策	1	学校教育の充実
施策	5	高校教育の充実・高等教育機関との連携
基本方針	1	高等学校教育の充実

[まち・ひと・しごと創生総合戦略]

基本目標		
政策		
施策		

事業種別	継続	主な事務事業	
事業期間	H 8	～	
事業実施の根拠法令	地方自治法、和歌山市補助金等交付規則		
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	教育政策課	南 敏博 (435-1135)	
関連課			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

1 事業概要及び実施内容

	事業目的 (「誰・何」をどういう状態にする) ための事業か)	事業内容				
事業概要	専修学校・各種学校教育の健全な充実発展を図る	一般社団法人和歌山県専修学校各種学校協会 (和歌山市駿河町21) に対して補助金を交付する				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		和歌山県専修学校各種学校協会への補助金の交付	和歌山県専修学校各種学校協会への補助金の交付	和歌山県専修学校各種学校協会への補助金の交付	補助金廃止	
		4月1日 申請・査定・交付決定 9月 概算払 3月末日 実績報告・再査定・確定	4月1日 申請・査定・交付決定 9月 概算払 3月末日 実績報告・再査定・確定	4月1日 申請・査定・交付決定 9月 概算払 3月末日 実績報告・再査定・確定		
		[総事業費: 4,443,385円] [生徒数: 2,443名 (内、市内校 1,593名)]	[総事業費: 4,668,407円] [生徒数: 2,355名 (内、市内校 1,478名)]	[総事業費: 5,525,000円] [生徒数: 2,355名 (内、市内校 1,478名)]		

2 事業コスト

事業費等 千円		平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		
		当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
	事業費	200	200	200	200	200	200	0				
	伸び率 (%)	-	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-100.0%				
	人件費	常勤職員	1,178	1,351	1,428	1,365	1,365	1,302				
		非常勤職員										
		小計	1,178	1,351	1,428	1,365	1,365	1,302				
	国庫支出金											
	県支出金											
	市債											
その他												
一般財源 (税等)	200	200	200	200	200	200	0					
所要人数	常勤職員	0.16	0.18	0.19	0.18	0.18	0.17					
	非常勤職員											
主な予算内訳												

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	補助申請受付数				年度目標値	1	1	1	
					実績値	1	1	1	
	単位	件	全体目標値		全体目標達成度	100.0%	100.0%	100.0%	
					年度目標値				
					実績値				
単位		全体目標値		全体目標達成度					
成果指標	補助金交付回数				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	補助金交付回数				年度目標値	1	1	1	
					実績値	1	1	1	
	単位	回	全体目標値		全体目標達成度	100.0%	100.0%	100.0%	
					年度目標値				
					実績値				
単位		全体目標値		全体目標達成度					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい		一部見直しが必要	○ 見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき		他の主体との協働も可能	○ 市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む		中長期的に取り組む	○ 緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない		制約はあるが可能性はある	○ できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	○ 見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持				
	縮小				
	廃止	○			
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>具体的な高等技能を身につけられる専修学校各種学校は、生徒数は横ばいであるものの「職に就く」という点から、重要な役割を果たしている。しかし、補助金交付先である一般社団法人和歌山県専修学校各種学校協会の財務状況は、本市の補助金額を上回る繰越金が発生しており、補助金交付の必要性は低いと考える。</p>
「見直し」「改善」案	補助金廃止